

## 世界を変えよう基金報告書

団体名：インドワークキャンプ団体 namaste!

活動内容：インドのハンセン病コロニーにおいてワークキャンプ活動を実施し、回復者の社会的尊厳の回復と経済的自立を促進すること。

活動期間：2024/02/27~2024/03/14

活動場所：インド西ベンガル州ビシュナプールコロニー

### プログラム実施に至った経緯と目標

私たちはインド国内のハンセン病回復者とその家族に対する差別解消を目的として活動しています。ハンセン病コロニーの人びとは社会から差別をされてきた歴史があり、現在でも貧困に直面し進級・進学が難しく、定職に就くことができていない人がいます。また、主に高齢世代では、物乞いで生計を立てている人も少なくありません。私たちはワークキャンプを実施することで、外部の人が抱く差別意識とハンセン病コロニーの人々自身が持つ被差別意識の解消を目指しています。

今回の渡航では、前回キャンプ(2023年9月実施)の際に立てた「劣悪な居住環境の改善」というワークキャンプの方針に沿ってプロジェクトを行いました。また、プロジェクトを通して、「支援者と被支援者」ではなく「あなたとわたし」という対等な関係を築くことを目標に活動を行いました。

### 各プロジェクトについて

今回実施した主なプロジェクト(以下PJ)は、家屋修繕PJ、きのこハウス修繕PJ、口腔ケアPJ、ADIHATTA共同PJです。

#### ○家屋修繕PJ

##### 【内容】

前回キャンプ(2023年9月実施)で行ったインフラ整備リサーチPJにおいて、ハンセン病コロニーの中でも緊急性が高いと判断された5軒の家屋修繕、またその優先順位が決定しました。今回は、その5軒の中でも最も緊急性の高い1軒の家屋修繕を行いました。家屋修繕の工事は、現地の職人に委託します。そのため、渡航前から現地カウンターパートとコンタクトを取り、修繕費用の確定や工事内容の確認を行いました。今回の修繕にかかった費用は、147,000Rs(日本円で約267,000円)でした。今回の修繕費には、クラウドファンディングで集めた164,920円、学生ボランティア団体助成金の100,000円を使用し、

残高は学園祭に出店した際の収益から補填しました。

#### 【結果】

まず、今回の反省として、渡航前の準備段階から現地カウンターパートとのコンタクトがうまく取れなかったということが挙げられます。そのため、直前まで工事の詳細を確認することができなかったため、渡航中も予定通りの日程を進めることができませんでした。工事は現地の職人に委託して行いますが、危険が及ばない範囲での簡単なワークを私たちキャンパーと村人が協働して行うことで、村人とのより良い関係性を構築することがこのPJのもう一つの大きな目的でした。しかし、工事開始が大幅に遅れたため、渡航期間中に村人と協働したワークを行うことはできませんでした。

#### 【今後の課題・方針】

今後の課題として、渡航前の準備が挙げられます。渡航期間に私たちがワークを行うために、明確な見通しをもって現地カウンターパートとコンタクトをとる必要があります。また、前回キャンプにおいて、5軒の家屋修繕を2026年3月までに完了するという目標を立てたため、毎回のキャンプで1軒の修繕を行う必要があります。そのため、半年という短い期間の中で1軒の家屋修繕を行うための資金を集めることも大きな課題です。次回キャンプに向けて、前回に引き続き助成金の申請を行うほか、学園祭での出店や対外イベントへの参加、企業への協賛依頼など積極的な広報活動を行い、修繕のための資金を集めていく予定です。

#### ○きのこハウス修繕PJ

##### 【内容】

新型コロナウイルス流行以前のキャンプでは、ハンセン病コロニー内にある小学校に宿泊をし、完全に住み込みで活動を行っていました。しかし、新型コロナウイルス終息後のキャンプ再開時には、小学校が政府に管轄されている関係から宿泊することができなくなってしまい、コロニー近くのゲストハウスに宿泊しています。しかし、コロニーとゲストハウスの往復によるキャンパーの負担やPJのしやすさ等を考慮し、今後のキャンプでもコロニー内に宿泊することはできないかと考えました。そこで、namaste!が以前きのこ栽培PJを実施していた際に使用していたきのこハウスと呼ばれる2部屋(現在は未使用)を今回修繕し、次回以降のキャンプからそこに宿泊できるかを検討しました。

##### 【結果】

村人や子供たちが積極的に協力してくれたため、想定よりも早く掃除を完了することができました。また、掃除をする中で村人や子供と交流することができ、良い機会となりました。

した。

#### 【今後の方針】

きのこハウスには電気が通っておらず、ファン也没有せん。キャンパーが寝泊まりするためには、工事をして電気を通し、新たにファンを設置してもらう必要があります。現地カウンターパートとコンタクトを取り、工事の見積書作成を依頼する予定です。また、扉についている鍵が内側からしかかけられないため、新たに簡易的な鍵を設置することも検討しています。

#### ○口腔ケア PJ

##### 【内容】

口腔ケアを行い、虫歯の予防を徹底することの重要性を伝えること、歯科教育を通じた健康増進を目的として行いました。現地の歯科医を招き、子どもたちを中心に歯磨き教室を実施しました。また、村人全員に対して一人一つずつ歯ブラシと歯磨き粉の配付を行い、口腔ケアの現状を把握するため、リサーチも行いました。

##### 【結果】

リサーチの結果から、多くの村人が歯磨きを1日1回朝に実施していることがわかりました。一方で、歯磨きをしていないという村人もいました。歯ブラシの保管方法についても調査を行いましたが、正しく保管できている家庭もあったものの、多くの場合はブラシの部分が上に向けられていないなど改善点が多く見られました。今回のPJでは、リサーチだけでなく、村人全員に対して歯ブラシと歯磨き粉の配付・歯磨き講習会も行ったため、一つでも多くの家庭で状況が改善されることを期待しています。

#### 【今後の方針】

今後、このPJを継続的に実施していくかは未定ですが、実施する際には、今回配付した歯ブラシと歯磨き粉が正しく使われているかの調査を行いたいと考えています。

#### ○ADIHATTA 共同 PJ

##### 【内容】

2023年3月のワークキャンプで実施したプロジェクト同様、現地カウンターパートが主催するNGO ADIHATTAと協力し、コロニー外のアートスクールにコロニーの子どもたちを連れていき、図工の授業をアートスクールに通うコロニー外の子どもたちと交流しながら受けてもらいました。今回実施した授業内容は、「パクパク人形で自己紹介」です。一人一つずつビニール袋と色画用紙を使用してパクパク人形を作成し、名前カードを貼って

自己紹介を行うというものです。普段、外との交流が限られているコロニーの子どもたちがアート教室に通う子供たちと交流を多くできるよう、この授業を行いました。

### 【結果】

授業を実施する際、5人程度のグループをコロニーの子どもとアートクラスの子どもが半数ずつになるよう作成したため、コロニーの子どもたちがアートクラスに通う子供たちと積極的に交流する姿が見られました。当初計画していた自己紹介をするという内容は、時間の関係上実施することができませんでしたが、コロニーの子どもたちにとって、外の世界を知る非常に良い経験となったのではないかと考えています。

### 【今後の方針】

今回のようなコロニー外との交流の機会を設けることは、コロニーの子どもたちが様々なことに興味を持ち、自ら行動するようになるための非常に重要な機会であると考えます。そのため、ADIHATTA との協力関係を維持するだけでなく、アートクラス以外の活動においてもコロニー外との交流の場を設けることを検討しています。

### 今後の展望

2023年9月キャンプで設定した2026年3月までに5軒の新築を完了するという目標を達成するため、資金集めを計画的に行い、各キャンプで1軒ずつの新築を目指します。また、ビシュナプールコロニーだけでなく、新たなコロニーでの活動も視野に入れて活動していきます。

### 活動写真紹介

#### ○家屋修繕PJ



○きのこハウス修繕PJ



○口腔ケアPJ



○ADIHATTA 共同 PJ

